

海外視察研修報告：サクラメント市における看護教育・小児医療

枝川 千鶴子，藤原 紀世子，豊田 ゆかり，中西 純子

愛媛県立医療技術大学紀要 第12巻 第1号抜粋

2015年12月

海外視察研修報告：サクラメント市における看護教育・小児医療

枝川 千鶴子*, 藤原 紀世子*, 豊田 ゆかり*, 中西 純子*

A Report of the Study Tour : Nursing Education and Pediatric Care in Sacramento

Chizuko EDAGAWA, Kiyoko FUJIWARA, Yukari TOYOTA, Junko NAKANISHI

Key Words : 海外視察研修 学生海外研修企画 看護教育 小児医療 Sacramento

序 文

本学における看護学教育は、深い人間理解の下に専門的知識や技術を習得し、社会の変化に柔軟に適應できる人材育成に取り組んでいる。文部科学省から平成23年3月に「大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会最終報告」¹⁾が出され、学士課程における看護系人材養成の目指すものとして保健、医療、福祉等に貢献していくことのできる応用力のある国際性豊かな人材の養成とあり、本学も基礎的知識や実践能力を高めるために、さらなる教育の充実に向けて検討を重ねてきた。

そして、時代のニーズに対応し、専門的知識・技術の発展・探究を目指した教育の充実に向けて、看護学部生の国際的視野を広め、今後の学習への動機付けとするために海外研修を企画することとなり、その準備として、看護学科教員4名が派遣先の視察研修を行った。研修先は、愛媛県松山市の姉妹都市であるアメリカカリフォルニア州のサクラメントとした。松山-サクラメント姉妹都市協会や知人を介した方々の多くの支援をいただきながら実施した。また、海外研修に参加した3名が小児看護学の教員であり、小児看護についての知見を深めるために小児病院2ヶ所の見学の機会を得た。

本稿では、訪問したAmerican River CollegeとCalifornia State University, Sacramentoの視察内容と、UC Davis Medical Center/UC Davis Children's HospitalとShriners Hospital for Childrenの見学内容について報告する。

海外視察研修に至るまでの経緯と研修日程の概要

今回の研修目的は、平成28年度から予定の学生海外研修プログラム企画のため①学生を海外研修として派遣する現地(学校の教育状況、交通手段等)の状況を確認する。②ホームステイに関する情報収集と相談窓口を探

す。③地元の支援者と交流し関係を構築する。④小児病院を見学し小児看護についての知見を深める事であった。研修日程を表1に示す。

表1. 海外視察研修日程

月 日	スケジュール
9.10(木)	サクラメント市内到着後ホテルへ移動。
9.11(金)	*ロス・リオス コミュニティカレッジ視察 *カリフォルニア州立大学サクラメント校視察 *海外研修支援者たちと交流
9.12(土)	*UC Davis Medical Center / Children's Hospital 訪問 *Shriners Hospitals for Children - Northern California 訪問 *カリフォルニア州の小児の訪問看護について講義を受ける
9.13(日)	*サンフランシスコ市内に移動
9.14(月)	*サンフランシスコ市内視察
9.15(火)	*サンフランシスコ空港発
9.16(水)	*成田経由松山空港着

視察研修に至るまでの経緯としては、まず、日本の松山-サクラメント姉妹都市協会関係者に、現地在住者で今回の企画に協力していただける方2名を紹介していただいた。2名の方は海外からの留学生や研修生の支援をされている方で、1名はネイティブの方、もう一方は日系アメリカ人の方で、松山-サクラメント姉妹都市協会とも結びつきのある方たちであった。このお二人に学生派遣先の候補校の提案と今回の視察研修プログラムの交渉をお願いした。

結果、サクラメント市にあるLos Rios Community College / American River CollegeとCalifornia State University, Sacramentoの訪問、及びアメリカでも有名な医療施設であるUC Davis Medical Center/UC Davis

*愛媛県立医療技術大学保健科学部看護学科

Children's HospitalとShriners Hospital for Childrenを見学できることとなった。

視察当日までの交渉はE-mailを介し行った。現地通訳はアメリカに永住権を持ち、訪問看護のエキスパートである日本人の知人をお願いし、同時に、アメリカの訪問看護事情についてのレクチャーを受ける機会も得ることができた。



写真1. 現地支援者からレクチャーを受ける

現地仲介者たちが設けてくださったwelcome partyには、松山-サクラメント姉妹都市協会の役員の方も出席してくださり、学生派遣時の宿泊先探しや現地での具体的な学生支援等について協力要請することができ、サクラメントでの2日間の研修を終えた。

大学訪問

1. Los Rios Community College/American River Collegeの視察

American River College (以下ARC) は2年制の公立短期大学で、看護学部では2年間の教育で準学士号と看護師(RN:Registered Nurse)の資格を取ることが可能である。学生の特徴としては、高校卒業後すぐに入学する学生は少なく、社会経験をして入学する人が多い。従って、年齢層にも幅があり、仕事をしながら学修する社会人学生が多いことが特徴であった。

1) 授業見学

ファーストセメスターの1年生に実施されていた授業についての授業を見学した。1クラス40人(うち男性9人)。教員は事前に授業資料をオンラインに出しており、学生は資料をダウンロードし教材として使用していた。ダウンロードした資料は直接書き込む事も可能であり、学生はノートパソコンを使用しながら受講していた。教員は事例紹介や問題提起を行い、学生との対話を生み出し積極的に意見交換がなされ、アクティブ・ラーニングが実施されていた。

2) 施設見学

演習室では、専属のシミュレーター作動のエキスパート(教員)が指導・管理をしていた。ここは看護だけでなくいろいろなプログラムがあり、看護助手のプログラムや看取りのプログラム、救急救命のプログラムなどがあるとのことだった。コンピューターによる高機能のシミュレーションが実施できるようになっており、実際に新生児の蘇生の演習を行いながらコンピューター上に示される評価を確認し、スキルアップに繋げるという体験をした。その他、重度熱傷で呼吸管理されているモデルや、分娩の娩出期の状態をリアルに表現できるモデル、成人の急性期のモデルなどがあり、コンピューター操作によって呼吸・心拍などの設定を随時変更することも可能でリアリティの高い演習が実施され、ヘルスアセスメント能力を高める教育がされていた。

グループ毎に演習を行っており、数名が実施・数名は観察を行い、交代しながら経験をする。一人ひとりがモデル人形に関わる可能性が無いこともあるが、演習後にみんなで話し合っただけで学びを深めているということであった。シミュレーターのメンテナンス費用は高いが、大学内の費用に加え寄付により維持・管理されているということであった。

3) ランチミーティング

学部長・学科長ら5人とブュッフエスタイルのランチをとりながら、大学・教育内容について話し合った。ARCの看護教育について、今年9月からConcept-Based Teaching²⁾に教育方法を変更したということだった。今回の新たな教育方法に取り組むにあたっては、専任教員12名でセミナー等を繰り返して準備してきた。以前は疾患モデルをもとに教えていたが、今は総合的に捉え看護を教えるように変わった。今学期から始めたばかりだが、学生はただ聴いているだけではなく事前準備が必要(予習が重要)なので、集中して参加することを教員は期待している。また、教育方法が変わることで教員も学生も変化に適応しなければいけないのでそれだけチャレンジと言えるということであった。

アメリカは日本と違って多様なカルチャーがあり、その影響が大きいと考え今後さらなる検討を続けていく予定だということで、教育に対する熱意を強く感じた。

看護師資格については、卒業前に看護師試験(NCLEK)をコンピューターで受けており、75問正解すれば自動的に合格だが受からなければ何度も挑戦することになる。問題の難易度によって配点が違うので、多いときは265問まで増える。また、コンピューターは知識だけなので、臨床テクニックは学校で教授によって評価されていた。

研修生が病院見学等行うことについては、病院で実習しない時でも見学するには準備が必要である。守秘義務等を遵守するサインが求められるだけでなく、コンフィ

デンシヤリティに関する理解が必要でレディネスができていないといけないということであった。

2. California State University, Sacramento の視察

California State University, Sacramentoは、カリフォルニア州立の4年制総合大学であり、看護学部は学士課程と修士課程がある。学生は1クラス80人、3年生は23人の男子学生が学んでいた。学生の背景はほぼ本学と同様で、高校卒業後すぐの入学生が中心であった。



写真2. California State University Sacramentoを訪問

1) 授業見学

小児看護学(3年生)の授業見学を行った。アクティブ・ラーニングを実施しており、ミニレクチャー後ケースカンファレンスをグループで実施していて、どんな学びがあったかをプレゼンテーションしているということであった。授業風景は、American River Collegeと同様に各個人がノートパソコンを開いて授業に参加していた。

2) 施設見学

演習室は、医師や看護師、大学院生もこの演習室を利用しているとのことであった。演習室は病院の1室ほどのスペースの部屋が複数あり、ビデオカメラが設置され、演習の様子を他のクラスの学生が見ることができるようになっていた。また、演習室の一面がマジックミラーになっており、隣の部屋から演習状況を確認することができるようになっていた。演習の様子をビデオやマジックミラーを通して他者評価ができるようになっていて、演習している学生からは見えないマジックミラーの裏から学生に質問をしているとのことであった。ビデオを見ながら自己評価も可能であり、こうしたシステムが小児看護・成人看護など分野ごとに設置されていた。

患者のさまざまな状態を臨床の場で経験するとは限らないので、コンピューター設定した状況下で経験できるようにされていた。

実際に2週間前に入学したばかりのファーストセメスターの1年生が演習している様子も見学した。演習内容は床上排泄の介助についてであったが、事前にデモンストレーションビデオを見て実施しているということであった。見学時は午後であったが、午前中はバイタルサイン(脈拍・血圧など)を学んですぐに演習を行っていた。次の週には高齢者を対象としたケアを実施する予定ということであった。本学における看護技術教育は、対象理解として人間の身体と精神に関連する科目や、看護を提供する際に共通する基本的な技術の原理原則と方法を講義で学んだ後に、看護活動の基盤となる援助技術を学んでいる。California State University, Sacramentoにおいて、入学後2週間という早期時期から技術演習が行われているのは、生活援助技術が看護師(RN)業務ではなくて看護アシスタント(CNA: Certified Nursing Assistant)の仕事として位置付けられていることが考えられる。米国においても患者の清潔ケアは必要な看護であるが看護師が行う機会は日本に比べて少ないためか講義と演習時間も短い³⁾とあるように、違いがみられた。

その他、学習ルームやランチルームなどがあり、学習ルームには修士学生の論文や教員が寄付した本などが置かれており、いつでも閲覧ができるようになっていた。修士論文が自由に閲覧できる環境は、学部の学生たちを早期から大学院進学へと動機づけるよい環境だと感じた。

また、学校の中材である機材保管室があり、バーコードで薬剤の投薬練習を行うものや、小児看護学や成人看護学などすべての領域で使用される機材を収納していた。ただ、病院で必ずしも同じものを使っているとは限らないので、それが問題になると言われていた。

病 院 訪 問

1. UC Davis Medical Center/Children's Hospital 見学

UC Davis Children's Hospitalの看護部長と職員の方に案内いただき病院内を見学した。UC Davis Children's Hospitalは全国ランクの総合的な病院で、0~18歳の子どもたちとその家族に対して、最高レベルのケアを提供している。病院は129床で、新生児集中治療室(NICU)、小児集中治療室・小児心臓集中治療室(PICU/PCICU)などがある。2015年6月US News and World Reportは、UC Davis Children's Hospitalを、5つの小児専門分野において、国の最高位のBest Children's Hospitalsとしてランキングしている。

看護師は454人が勤務しており、全て看護師(RN)である。看護師はより良い治療を確実に、また、子どもが病院でより快適に過ごせるように援助する。さらに、家族中心の環境を提供し、子どもとその家族との関係を大切



写真 3. UC Davis Medical Center/UC Davis Children's Hospital 訪問

にしながら、入院が安楽と癒しの経験となるように全力を尽くしていると説明を受けた。

看護師の7割が学士を持っており、修士の学位を持っている人も多く教育レベルが高い。また、認定資格を持って専門家として働いている人が多く、病院は教育に対してサポートしており、こうしたことが看護の地位向上につながるという説明を受けた。

病院職員には、チャイルドライフスペシャリストやソーシャルワーカー、ディスチャージプランナーなどがおり、タイムリーにカンファレンスを行っているということであった。

1) NICU

49床あり平均38人の入院患者が最先端の治療を受けているということであった。病室は保育器が最大4床入るスペースの個室に分けられており、入院児のケアの目標等が書かれたボードが、ベッドごとに壁にかけられていた。

病院の壁や廊下は動物をモチーフにして彩られていた。医師や看護師が親に説明していた部屋はガラス張りで、中の様子が公開されていた。家族が使用するFamily Sleep Roomもあり、家族のためのシャワールーム等も設置されていた。Family Sleep Roomは退院が決まったら1日～2日間入り育児をしながら必要な指導を受けることができるということであった。

カルテはすべてコンピューターで管理されており、必要であれば医師や看護師が付き添う中で、家族もコンピューターの情報を閲覧することができるようになっていた。

看護体制は3人の赤ちゃんに1人の看護師がついてケアをしている。1年間に入院患者は985人で、平均18～27日の入院期間であり、医療的ケアが必要な状態で退院となるため、ほとんどの場合訪問看護師と連携し、ケアを継続していると説明を受けた。

2) 小児病棟

0～18歳の子どもが入院しており、平均入院期間は2.7日。平均30ベッドが稼動しており、年間の入院数は2500人ということであった。

病棟にはプレイルームがあり、子どもたちにとって楽しい時間を過ごせるように工夫されていた。ハロウィンやクリスマスなどの行事も行われており、看護アシスタントも配置されていた。年齢の高い子どもと低い子どもで部屋が分かれており、寄付されたおもちゃが置かれていた。

院内学級のような学習室もあり、幼稚園児から利用していた。中高生で、学習が足りないときはホームスクーリングでその人の先生を探すとのことであった。

エンジニアの方が、点滴をしている子どもを移動するときに使用するワニ型のカートを作ったことなど工夫している点なども説明があった。

3) PICU/PCICU

24床あり、年間1200人の子どもが入院している。看護師1人が1～2人の患者を看護しているということであった。心臓の手術後保育器に入っている子どもの部屋を訪れたが、子どもの観察とアセスメントを行う看護師とたくさんの薬物を管理する機器を操作する看護師二人が部屋を担当していた。

4) 救急外来

救急外来には患者家族が集える部屋があり、宗教的な支えを必要とする人たちが信仰できるよう配慮がされていた。またチャプレンが配置され、心の平安を取り戻してもらうためのシステムがあった。チャプレンは病院患者だけでなく、スタッフに対しても必要があればカウンセリングもするが、宗教は自由で決まっていないということであった。

部屋には様々なパンフレットが心のケアに対して置かれていた。部屋の設計も光の調節などいろいろな事が考えられており、心の安定が得られるように配慮されていた。

2. Shriners Hospitals for Children-Northern California 見学

Shriners Hospitals for Childrenの理事長に案内いただき病院内を見学した。

Shriners Hospitals for Childrenは、火傷、脊髄損傷、脊髄疾患、口蓋裂などの手術を受ける子どもを対象とした小児の専門病院で、1500人/月が術後の外来に来ている。患者の支払い能力に関係なく専門性の高い治療・ケアが提供されており、主に小児の整形外科医療とリハビリテーションについて最先端の医療、研究が行われている。病院は民間からの寄付による運営がされており、さまざまな文化の人に対応するため、通訳が必要なら通訳

者を呼んだり、車のない人のために患者を車で送迎したりするなど、多くのボランティアも関わる中で、患者のニーズに応じた患者・家族中心の医療が提供されており、US News and World Reportの小児整形外科部門でBest Children's Hospitalsとしてランキングされている。

1) 治療・検査関連部門

運動解析室や義肢・装具作成室を見学した。運動解析室では子どもたちの歩行分析や関節可動域などの動作を解析することによって、治療やリハビリテーションのプログラムの検討、さらに義肢装具制作についての検討がなされている。

義肢・装具作成室では、3歳児の義肢を作成している場面や火傷治療に使用する装具に関して見学と説明を受けた。

義肢装具については、対象者のニーズに対応し作成したり、子どもたちの好きな柄をプリントしカラフルに仕上げるなど、アイデアに富んだ作成がされていた。また、40年前の靴も見せてもらい、現在の義肢との重量感の差を経験した。

2) ADLルーム

病院にいる子どもの特徴は、四肢の障害をもっている子どもである。残された機能を使っていろいろなことを体験できるような環境があり、子どもたちがパンケーキを作りたい時など、この特別な部屋で練習をして新しい技術を獲得することができるようになっている。家に帰ったときも自分で自立して活動ができるように様々な経験ができるようになっているという説明を受けた。

3) その他の環境

教室もあり、2人の教員とたくさんのボランティアが働いている。教員は子どもが通っていた地元校の先生と相談して教育を進めているということであった。また、院内ではあるが外に出ることができ、床は転倒しても衝撃を吸収するクッション構造となっており、豊富な遊具を使って子どもたちが遊べる環境があった。天気や四季を感じるだけでなく、子どもらしく日々を過ごせる環境があり、成長発達につながっていると感じた。

ま と め

学生海外研修プログラム企画のためにアメリカカリフォルニア州のサクラメントを訪れ、看護学科の視察訪問と病院見学を行った。

アメリカの看護師は、上級実践看護師(APRN:Advanced Practice Registered Nurse)である、認定助産看護師(CNM:Certified Nurse-midwife)、認定麻酔登録看護師(CRNA:Certified Registered Nurse Anesthetist)、専門看護師(CNS:Clinical Nurse Specialist)、診療看護師(NP:Nursing Practitioner)の4種類と、看護師(RN)

准看護師(LPN:Licensed Practical Nurse)、看護アシスタント(CNA)があり、それぞれ業務内容が違っている^{4),5),6)}。日本における看護業務の清潔援助や排泄援助、室内の環境整備などはアメリカでは病院で研修等を積んだ看護アシスタントが行っている⁷⁾。

大学における看護の準学士・学士教育は、フィジカルアセスメント能力の向上につながる科学的・医学的な知識の教育や、リーダーシップ能力、管理・監督といったマネジメント能力を培うことが重視されており^{8),9)}、今回の看護学科視察で見学した授業内容は両校とも薬剤管理に関する内容であり、演習についてもフィジカルアセスメントや薬剤投与に関する内容が重視されていた。

このように看護師の役割や業務内容の違いがあり、教育方法など日本と異なる部分もあるが、教育内容の類似性が確認され、類似と相違を踏まえて海外研修による学生の国際的視野を養い、看護に対する関心を高めることが期待された。

学生の病院見学等については、短期の研修では情報管理等の点から課題が多く困難と判断し、ファーストセメスターの学生との交流を中心とした企画を検討することが良いと考えられた。

今回の視察研修は、学校と病院の訪問を2日間で行うハードなものであったが、授業見学や施設内見学、現地看護学教員との交流会、松山-サクラメント姉妹都市協会や視察研修の企画・仲介関係者の方々と交流し、学生の海外研修実現に向けたネットワークづくりができ、有益なものとなった。

引用文献

- 1) 文部科学省(15/11/08):大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会最終報告
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/40/toushin/1302921.htm
- 2) Jean FG, Linda C, Beth R (2013):MASTERING CONCEPT-BASED TEACHING. A Guide for Nurse Educators. Elsevier
- 3) 横田知子(2015):米国との比較でとらえる日本の看護教育. 朝日大学保健医療学部看護学科紀要, 1, 33-37.
- 4) Jerden 鈴木麻希(2012):アメリカでナースプラクティショナーが果たしている役割と日本でのその可能性. インターナショナルナースングレビュー, 35, (3), 162-167.
- 5) 早川佐知子(2015):アメリカの看護師と専門職化—その歴史的展開と現在—. 広島国際大学医療経営学論叢, 8, 53-91.
- 6) 早川佐知子(2014):看護補助者活用の現状と課題:

アメリカ Certified Nursing Assistantとの比較から、
日本医療経済学会会報, 31, (1), 79-115.

- 7) 大森圭美(2014):アメリカの医療制度と看護－実体験を通じての日米の比較. 看護教育研究学会誌, 6, (1), 33-39.
- 8) 前掲⁵⁾
- 9) 渡部富栄(2012):IOMレポート「看護の未来：変化をリードし、医療を強化する」がアメリカの看護にもたらすもの. インターナショナルナーシングレビュー, 35, 4, 81-88.

要 旨

学生の海外研修プログラムを企画するにあたり、平成27年9月10日～9月16日の日程で、アメリカカリフォルニア州のサクラメントにおいて視察研修を行った。参加教員は看護学科教員4名で、視察施設はAmerican River CollegeとCalifornia State University, Sacramentoの2校の看護学科を訪問し、現地の方々と交流するなかで、学生の海外研修に関する示唆を得た。

また、UC Davis Medical Center/UC Davis Children's HospitalとShriners Hospital for Childrenの小児病院2ヶ所の見学の機会を得たので報告する。

謝 辞

本視察研修を実施するにあたり、ご協力いただきました関係者の皆様に深く感謝いたします。

利 益 相 反

本報告における利益相反はない。